

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット 大地の翼		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	令和2年11月18日	評価結果確定日	令和2年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和2年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の運営理念『地域の人と交流しながら、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指します』を掲げ、同一目線、コールの駆けつけ、傾聴を大事にして利用者様と接していきけるように努力しています。毎朝のラジオ体操の後には深呼吸をして体を落ち着け、発声練習や身体全体の運動を行い残存機能維持に努めています。トイレ介助時や入浴時に皮膚の観察を行い、状況に応じた軟膏塗布等をして悪化防止に努めています。今年は家族会を開催出来なかったこともあり、お手紙で利用者様の状況の報告と写真を添えて毎月送付しています。毎月のミーティングでは個々の利用者様の状況・状態を確認し合い、支援に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天井が高く明るい共用空間は、レクリエーションの歓声が上り、希望の演歌が流れる中「あれを作って」と美味しかった献立の要望に応えながら、入居者其々のペースの食事を支援している。食事が低下し点滴を受けている入居者には、細やかなケア内容を事務コーナーに掲示し、本人の意思を確認しながら、無理強いをしないケアを実践している。行事や外出を自粛する中、野菜や芋、柿の差し入れが継続し、大量に頂いた紫陽花や秋桜は廊下に飾るなど、これまでに培った地域の方々との交流が伺える。運営推進会議のメンバーにはホーム状況を電話で、家族には毎月各入居者の状況を写真を添えて報告し、理解や協力をお願いしている。理念の唱和を継続し、毎月のミーティングでも理念を念頭に話し合い、職員が一丸となって入居者が安心して暮らせる日々を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームうぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念を唱和し、心新たにして利用者様と笑顔で接するように努めています。	開所以来掲げている理念の唱和が継続している。毎月開催しているミーティングでも理念を念頭に話し合い、同一目線、コール駆けつけ、傾聴に、職員が一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に参加していますので回覧板を通して地域の情報を得ています。出来るだけ行事には参加するように心掛けています。また、当施設の餅つき大会には地域の子供達・家族も参加されています。	自治会加入を継続し、回覧板で地域情報を得ている。行事や外出を自粛する中、法人理事の知り合いの方から、野菜や芋、柿の差し入れが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方が参加されていますのでその時に施設の状況などを伝えて理解を深めてもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催していましたが、今年はコロナウイルス感染予防のため開催中止としました。当施設内で行った行事の内容などについての報告は開催中止の案内とともにしています。	今年の2月以降、運営推進会議は中止しているが、市職員や地域代表等にはホームの状況を電話で報告し、意見を伺っている。特段の意見はないが、情報交換の機会としている。	報告内容を会議録として整備し、ホーム便りで家族に周知されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所から毎月空室の問い合わせがありこちらからも報告することがあります。また、利用者様の状況交換を行っています。	毎月、市担当者から居室情報の問い合わせを受けている。入居には至らなかったが紹介を受けたり、家族会で虐待に関する講話をお願いするなど、日頃から連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会の報告を通し、勉強会を開いています。利用者様の変化していく状態を確認しながら、拘束しないケアに取り組んでいます。事故防止のため、玄関、勝手口は施錠しています。また、拘束する必要性を認められたら家族了解のもと、拘束会議を開催するようにしています。	不潔行為がある入居者は、家族からの要望で、緩下剤の服用から排便があるまで一時的につなぎ服を使用している。経過を記録し、家族にも報告している。ベットの滑落や立ち上がりセンサーを活用して転倒防止に努めたり、外出傾向のある入居者は動向を見守り、声かけをしている。	事例を通じて話し合われた身体拘束適正化を会議録として整備し、さらなる適正化の促進を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックリストを活用し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様はおられない。玄関にパンフレットを置き皆の目が触れるようにしています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用を随時紹介するために、玄関にパンフレットを整備している。現在まで活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書を読みながら説明を行っています。また、不安や疑問点なども再度確認して納得していただけるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月開催している家族会では参加されている家族の方だけで話し合う機会を設け、話し合った内容の報告もいただいています。今年はコロナウイルス感染予防のため家族会も開催出来ませんでした。	コロナ禍に配慮し、月1回開催していた家族会を中止しているため、感染防止対応や面会制限について連絡したり、毎月各入居者の状況を写真を添えて報告している。家族からは、「表情が良い」や「状態はどうか」と電話での問い合わせを受けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換の機会を設けています。	率直な意見交換の場となっている毎月のミーティングは、法人代表の出席も多く、念願だった電動ベットの導入で介護負担が軽減している。社会保険労務士の提案で昼休み時間や介護職員処遇改善加算を見直している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利益が上がれば臨時手当を支給するようにしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	定年制度はありますが、健康であれば年齢を理由に採用対象から排除しないようにしています。シフトを組む前には希望休を尋ね出来るだけ希望を聞き入れています。	40～70歳代の職員が常勤、非常勤、夜勤専従と其々の事情に応じて勤務している。経験豊かな職員が多くこころ強いが、若い世代の人材の育成が課題と、管理者は話している。ホーム便り作りは〇〇さんにと能力を發揮してもらい、希望するシフトを叶えたり、15時にお茶の時間を設け、生き生きと勤務できる職場づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで利用者様の状況報告等行い情報を共有するようにしています。	参加している地域同業者協議会で実施していた人権研修は今年度は中止となっている。虐待の芽チェックリストを活用し、言葉遣いやプライバシーへの配慮の改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今迄はG・Hみやわかの研修には参加していましたが、今年はコロナウイルス騒動で研修自体が中止されていた為参加していません。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	G・Hみやわかは可能な限り参加するようにしていましたが、今年はコロナウイルス予防のために参加を見合わせました。困りごとなど出た場合は同業者に電話等で相談したりしています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は利用者様に話しかける機会を多く持つように心掛けています。介助中の何気ない会話の中に不安など無いか気に掛けながら接するようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に利用者様に関する事などお聞きして状態把握に努めています。その時に要望・心配事についても確認を行い説明しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴、以前利用されていたサービスなどを聞き取り、必要とされているサービスが提供できるのか家族と話し合っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と同じテーブルで話しながら食べています。利用者様が出来る仕事があれば提供し一緒に作業を楽しんでいます。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会の出席、行事参加で本人、家族、職員間で絆を深めていましたが、今年はコロナウイルスで面会が出来ない事もあり、書面で利用者様の状況報告と共に写真も毎月送付しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出は自由にして頂き、利用者様のお友達や親せきの面会や外出も大いに歓迎し、馴染の関係が途絶えないようにしていましたが今年はお断りしています。	昨今の状況から、ウッドデッキのガラス戸越しで、2名で短時間での面会をお願いしている。体力や気力、食事量の低下で、かかりつけ医から点滴を受けている入居者は、随意家族が面会できるように、特段の配慮をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲を把握し、トラブルが見られたら席替え・移動をしたりして柔軟に対応しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の葬儀や初盆には必ずお参りに行っています。また、亡くなられた利用者様のご家族にも行事の案内を送付し参加して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族の方から生活歴を聞き、入居前の情報も居宅ケアマネや病院のソーシャルワーカーからも収集している。	フェースシートやアセスメントシートにまとめた職歴や生活歴、心身の状況などの情報から、入居者の思いや意向、言動を理解している。傾聴に努めているため、食事の献立を要望するなど、自分の思いを話す入居者が多い。	夜間再三コールされる入居者の言動の背後にある感情の分析や共感に努め、入居者が安心できる生活の実現を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族などから今までの生活歴や馴染みの暮らしを詳しく聞き取りしている。また利用者様同士の会話の中から理解を深まることもあります。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングでは個別にケアカンファを行い、心身・身体状況、生活状況の把握に努めています。毎日の申し送りや介護経過からも現状を把握するように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、かかりつけ医などから得た情報等を基にサービス担当者会議やミーティングで検討を行い、個々の介護計画作成に努めています。	ケア内容を毎日モニタリングし、毎月のケア会議で気づきを話し合い、現状に即した計画を作成している。食事量が低下し点滴を受けている入居者は、細やかなケア内容を事務コーナーに掲示し、本人の意思を確認しながら、無理強いをしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の朝礼、個別介護記録と介護日誌等で情報を共有しています。関係各所から得た情報で毎月モニタリングし、介護計画を見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて介護計画を見直しています。問題点など見られれば、上司に相談して、職員全員の意見を求め解決に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事・地域行事・施設行事等で地域役員、子供会、ボランティアの方々と一緒に楽しんでもらえるように計画を毎年していましたが、今年はコロナウイルス予防のため行う事ができませんでした。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先するようにしています。当施設のかかりつけ医は往診して頂いています。家族と連携しながら受診を心掛けています。	全入居者が協力医療機関から定期的に往診を受けている。点滴や尿管カテーテルの留置を受けている入居者の状況は看護職員が随時報告し、適切な医療受診を支援している。必要な入居者のみ訪問歯科の受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態把握に努め、少しの変化も看護師に報告・相談しています。看護・介護職員は情報が共有できるよう介護記録や介護日誌に目を通し、口頭での申し送りで利用者の状態把握に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけ足を運び、情報収集に努めています。今年はコロナウイルスのため面会できませんでした。病院職員とは日ごろから良好な関係が築ける様グループホームの情報も伝え、共有するようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から運営推進会議や家族会で終末期の在り方について話し合っています。重度化する前に病院、家族、管理者等でよく話し合い、事業所でできる範囲を理解して頂き、ご家族の気持ちを優先で話を進めて行くようにしています。	入退院を繰り返し、ホームで最期を希望されていた入居者は、家族間の話し合いで医療機関に入院されている。「また、いつでもどうぞ」との受け入れの言葉に、家族から全職員に感謝の手紙を受け取っている。夜勤1人体制での看取りは、現在は難しいと管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に救急マニュアルを作成しており、直ぐに対応できるようにしています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をしています。日中だけでなく夜間を想定した訓練も行っています。その都度関係各所に連絡を行い、協力を求めています。今年はコロナウイルスで施設の職員のみで1回だけ行いました。	日中を想定し、入居者をホーム前の駐車場に避難させる訓練を実施している。昨年同様、災害時は市と随時情報を交換しながら避難する予定である。缶詰やレトルト食品などの賞味期限を明記した備蓄一覧表、入居者の連絡先や服薬情報を記載した緊急持ち出し書面を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔で穏やかな対応を心掛け、利用者様が聞き取りやすいようにゆっくりと話しかける様に努めています。訴えに関しては否定することは避け傾聴し本人様の意向を尊重出来る対応を心掛けています。	虐待の芽チェックリストの集計で多かった言葉遣いやプライバシーへの配慮について、職員会議で話し合っている。夜間の再三のコールに駆けつけているが、1人体制のため声かけに苦慮する場面も多いとの率直な意見もある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の出来そうな事、喜ばれる事を提供したいと考えています。レクリエーション参加の声掛けを行い、参加は本人様の意向を尊重しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望に沿うように努力しています。特に食事時間、起床・就寝時間は利用者様のその日の体調・ペースに合わせています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪に来て頂いていましたが、今年はコロナウイルスで来てもらうことは出来ませんでした。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には好みを尋ねています。利用者様の誕生会はケーキを食べて頂く、旬の物や畑の野菜で食事を作っています。テーブルを拭いたりして手伝ってくださいます。	唐揚げや茶碗むしの希望が多く、「あれを作って」と美味しかった献立の要望にも応えている。調査日も、希望の演歌が流れる中、職員の見守りで入居者は其々のペースで食事を取っている。中には1時間以上かけて自分で食事をされる入居者もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて毎月メニュー表を作成しています。食事・水分量は個人別に記録し把握するようにしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を行っています。訪問歯科も実施していましたが、今年はコロナウイルスで特に問題があった方のみ往診して頂いています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、トイレやポータブルトイレ誘導を行っています。排泄管理表に時間を記入して、尿意・便意の無い方には時間を見て声掛けや誘導を行っています。	前止めオムツの利用者や、自ら夜間のみオムツを希望される入居者もある。ポータブルトイレの使用はなく、夜間もトイレに誘導したり、日中トイレに行く入居者も職員が失禁を確認している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、毎日排便チェックを行い、腹部マッサージを施行しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴で週2回以上は入れるように計画しています。入浴拒否が見られる方には声掛けの工夫をしたり、翌日に変更するなどしています。	週2～3回、入浴を支援しているが、職員2人体制でシャワーチェアへ移乗を支援する入居者もある。入浴を億劫がられる時には、時間や日をずらして声をかける等の工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて午前・午後と臥床対応を行う方もいます。午後の昼寝は強制的ではなく、休めない方はリビングで自由に過ごして頂き夜眠れるようにしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に合った服用方法で服用して頂いています。薬の変更があった時は様子観察を行い体調変化に気を付けています。内服薬一覧表も各利用者毎にファイルしており、いつでも確認できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る仕事(洗濯物たたみ等)お願いしてお手伝いして頂いています。週刊誌や新聞を読んで気分転換などをされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月毎の行事で外出していました。今年も計画を立てていましたが、コロナウイルスで外出できませんでしたので、園庭に出て日外ぼっこをしながらのお茶会や、季節感を味わって頂くために季節に沿った花をバケツに活け、廊下に数ヶ所置いて楽しんでいただき気分転換が図れるようにしました。	外出を自粛し、園庭で外気浴をしたり、ボランティアの方が持参された大量の紫陽花や秋桜は廊下に飾り、お花見気分を味わっている。11月は久しぶりに紅葉狩りに出かけ、笑顔の写真を廊下に掲示している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事ができていないこともあり、個人でのお金の所持はされていません。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から希望があれば電話をかけて取り次いでいます。施設からは本人様の状況報告の際家族の方へ電話をかけて頂けるようお願いの手紙を送付しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生会、運動会などの行事の写真を貼っています。季節感を取り入れた壁の環境整備、利用者様が塗られた塗り絵を展示しています。	玄関正面に赤い山茶花、共用空間の壁にはサンタクロースの貼り絵を飾り、季節感のある設えをしている。天井が高く明るい共用空間は、午前中はレクリエーションで歓声が上り、食後は入居者の寛ぎの場となっている。トイレは広く車イスの使用が容易で、廊下の入り口に矢印を掲示し、見当識を促す工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにソファを置き、自由に過ごして頂いています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使用されていた家具等を持って来ていただいています。家族写真や、母の日の手紙などを壁に貼られている方もいらっしゃいます。	入口に表札が掲示され、各居室とも清掃が行き届き整理整頓され、吐き出し戸を開けて換気している。家具やテレビを持ち込み、家族の写真などを飾ったり、畳の間に電動ベットが設置された居室もあり、居心地よい居室作りを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置しています。廊下の手すり伝いにリハビリをされている方もいらっしゃいます。トイレや浴室も分かりやすい言葉で書いています。		